

KEY PERSON

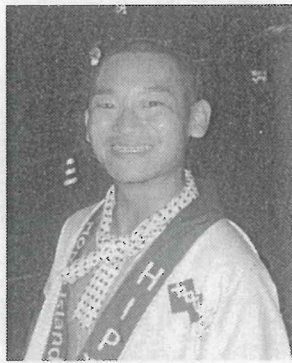
地域活性化を担う

36

四国の魅力を世界中に発信したい。そんな思いから2008年初めて東京で発足したのが、四国を愛する有志のネットワーク「ホームアイランドプロジェクト」だ。現在のメンバーは約200人。応援するサポーターは約1000人になった。

もともとは四国各県出身の学生や若手社会人が、東京で地元の県を応援する活動をしてきた。その県単位の活動を四国として統合させ、HIP

ホームアイランドプロジェクト代表 岡田 育大氏



おかだ・いくひろ 80年生まれ(昭55)徳島市生まれ。公認会計士・税理士。慶大経卒後、07年にスマートエナジーに入社。現在は地球温暖化防止のコンサルティングを行う。06年、東京で物産販売を始める「e-tokushima.net」プロジェクトを立ち上げ、08年から「ホームアイランドプロジェクト(HIP)」に参加。10年にHIP代表就任。

が誕生した。皆が四つの県の魅力をあわせた「四国」という島に無限の可能性を感じたからだ。設立メンバーが呼びかけ、外から恩返しをしたかと思っていた四国出身の人、他の地域から四国に魅力を感じていた人、またまた住んだ四国が大好きになっていった人らが集まってHIPは活動し

ている。四国の魅力をあらゆる角度から伝えるために、各種プロジェクトを推進してきた。

まず08年3月、四国で世界的なビジネスをしている企業・団体のトップを招いて語り合う、ビジネスフォーラム「世界に

つながる四国の企業」を東京で開催した。愛媛県今治市の池内タオルなど、4社のトップから首都圏で働く四国出身者に独自の経営哲学、地元への思いを伝えてもらった。自然体で世界を相手に仕事をするパネリス

トの話や聞き、参加者は「不便で田舎」というイメージを超え、新しい四国を知った。

四国の強みである農業のイベントも開いた。08年8月から11月にかけて、四国の若手農家と東京の食のプロをつなぐイベント「農」と言える四国」を開催。四国の魅力的な食材の新商品開発や四国の生産現場への訪問、表参道でのレシピ披露、即売会など、四国の農業を応援するプロジェクトを進めた。

販路開拓も支援

【南大阪】堺市は2011年度から、環境負荷の低減や福祉関連といった事業について、課題解決に取り組む市内中小企業の支援に乗り出す。実効性の高い計画案を公募し、製品や技術の開発に必要な経費の一部を助成する。環境など行政機関が深くかかわる分野の課題解決に取り組む中小向けの支援策で、公募は1社単独に加え、大手企業や大学の協力を得るケースも対象にする。

参加が決まった企業には補助金を支給し、課題解決に向けた製品開発が可能な環境を整備する。同時に参加企業の販路開拓支援も視野に入れるなど幅広い観点からサポート体制の構築を目指す。完成した製品や技術に

ついては、12年度中に有効性を確認するための実証試験を行う。試験結果が良好と判断された場合、13年度以降に堺市側で製品購入や技術導入を進める。さらに堺市で購入・導入した製品や技術について、他の自治体へ

の紹介も検討。事業に参加した中小の販売ルート拡大に役立つ支援策作りにも取り組む。

これまで堺市は中小企業向けの支援策として、産学連携による技術開発に補助金を支給する制度を展開してきた。今回の事業は開発支援に加え、販路開拓のサポートまで

新事業助成金 13件を決定

滋賀産業支援プラザ 【大津】滋賀県産産業支援プラザは、2011年度第1回のしが新事業応援ファンド助成金の交付事業で、共栄電機工業(大津市)の有精剛雄雄鑑別事業など13件を決定

大学生、ビジネス

アジアビジネスプランコン作り、アジア市場に進出したといった企業の具体的なニーズに添えるビジネスプランを作成し、優秀を競う。学生にプロデュース力を高めてもらい、海外で活躍できる人材を育成するのが狙い。

主催するのはアジアビジネスコンテスト。参加する予定で、個人で申し込んだもの、チーム分けと同時に1人1人資金を揃える。すでに

4県の魅力統合 可能性無限に

つながらる四国の企業」を東京で開催した。愛媛県今治市の池内タオルなど、4社のトップから首都圏で働く四国出身者に独自の経営哲学、地元への思いを伝えてもらった。自然体で世界を相手に仕事をするパネリス



日刊工業新聞

Business & Technology

2011年(平成23年)

4 18

第21116号 月曜日

発行所◎日刊工業新聞社2011

本社 03・5644・7000 東京部中央区日本橋小網町1-1 大阪支社 06・6946・3321 大阪市中央区北浜東2-16 名古屋支社 052・931・6151 名古屋市東区泉2-21-28 西部支社 092・271・5711 福岡市博多区古門戸町1-1

計画案公募 行政の課題は角切

13版 運営する学生

強化

で拠点

物利用狙う

学上のマッチング機
持たせるほか、企業
普及啓発も行う。大
公設試験場を持つ知
源と企業を結びつけ
る。佐賀県は2020
までに、機能性食品
の新規産学官共同
シエクトに加えて、
への技術移転や新商
出などを目指してい
す。企業と大

る。主に
の共同研
性物質の
に利用す
イネータ
企業と大

相模原会議所

広く知っ
に向けて
い」とし

案では銀
幣のずれ
るため、
ながら取

日刊工業新聞

2011年
4月19日
火曜日

KEY PERSON 地域活性化を担う

37

四国の情報 世界に発信①

お祭りイベントも積極
的に取り組むのが「ホー
ムアイランドプロジェクト
(通称HIP)」の特色だ。
2008年6月は四国の食
物・地酒を集めて、阿波
おどりやよさこい祭りの
連も呼び、東京・大手町
で「四国大夏祭り」を盛
大に開催した。蛇口から
出るぽんジュース、実演
した讃岐手打ちうどん、
高知の地酒、四国の夏を
東京で丸ごと楽しんでも
らおうという企画は大成
功

岡田 育大氏

ホームアイランド
プロジェクト代表



で、入場制限するほどの
人気だった。翌年夏には
HIP連をつくり阿波お
どりに参加。徳島県人以
外もその魅力を実体験で
きた。

HIPの活動は海外に
も広がっている。「世界の中
心で四国を叫ぶ」と題
し、米・ニューヨーク、
マンハッタンで10年6月
に開催された「Japan
day」への出展で四
国をアピールするプロジ
ェクトに参加した。HIP
プアースではうち
わをつくるワーク
ショップを開き、
NYの街を阿波お
どりのほつび姿で
踊り歩くなど、ま
さに世界の枠組み
の中でHIPを紹介
したHIP連

東京・NYで祭りイベント

介できた瞬間となった。
ほかにも定期的な勉強
会などの活動も継続。今
では関西でもHIPの動
きが始まりつつある。
私たちは、今まで「四
つの県」としか考えてこ
なかつた四国を「一つの
島」としてあらためて見
つめ直すことで、小さ
島の中に、個性的で多
様な魅力が不思議に共
存していることを知った。
今後も四国の魅力を日
本、世界中に発信し、四
国を応援していくつもり
だ。地域活性化の活動で
は面白い。(随時掲載)

の入社式

ヤマニシ(宮城県石巻市、前田英
比古社長、0225・82・5555
1)は2週間遅れの入社式を石巻市
内の仮事務所で行った。同社は中
船を主力とする地場の造船会社。前
田社長は8人の新入社員に「90年間
培ってきた造船技術を継承、発展さ
せていかなければならない。新たな
歴史を作るのに、一緒(情)をこ

が、副委員長には小椋昭
夫バンドー化学会長と辻
卓史鴻池運輸(大阪市中央
区)会長がそれぞれ就
任。会議の冒頭、安藤委
員長は「東京一極集中の
是正や安全安心な国づく

りなどについても議論を
求めたい」との考えを示
した。委員会の設置期間は約
1年間。4月末にも第1
次の提言をまとめ、20
11年度内に中長期的な

2月の四国
鉱工業生産
【高松】四国経済産業
局が18日発表した2月の
管内鉱工業生産指数(速
報、2005年=100)
は、前月比3.0%
増の97.5と2カ月ぶり
に上昇した。化学と発
光ダイオード(LED)、
開閉制御装置などを扱
う電気機械が前月比2ケ
タ増となり、8業種で上
昇した。低下は一般機械
や輸送機械など7業種。

健康関連で
連携会議開催
九州経産局
【福岡】九州経済産業
局は22日13時から鹿児島
県指宿市のメディアポリ
ス指宿天珠の館で、「九州
健康関連産業連携会議」
を開く。健康産業に取り
組む産学官の関係者が集
まり、情報共有や連携方
策を検討する。同産業の
振興を旨として支那開港

表面処理鋼板・ステンレス

ISO14001認証取得 酸洗鋼板・コイル
株式会社 小河商店
名古屋市中区千代田2-25-3 ☎052-261-3131
http://www.ogawa-nt.co.jp/

月1日から13年5月31日
まで。年2回程度、会合
を開く。締め切りは5月
6日。問い合わせは県商
工労働局産業部産業活性
課(045・210・5
558)へ。
◆100円商店街
大津市 大津市商工会
議所、大津市商店街連盟
との共催により、201
1年度に市内中心部の長
等(41店)、菱屋町(35
店)、丸屋町(33店)の
商店街で100円商店街
を実施する。空洞化
が進む中心市街地商店街
の振興策。開催日時や具
体的な参加店など詳細は
早急に詰める。100円